

令和 3 年 度

三豊市病院事業会計決算審査意見書

三豊市監査委員

三 監 第 75 号
令和4年8月19日

三豊市長 山下 昭史 様

三豊市監査委員 片桐 正文

三豊市監査委員 詫間 政司

令和3年度三豊市病院事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された、令和3年度三豊市病院事業会計決算とその付属書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。

病 院 事 業 会 計

目 次

第1	審査の対象	1
第2	審査の期間	1
第3	審査の方法及び着眼点	1
第4	審査の結果	1
第5	審査の概要	2
I 永康病院事業会計		
1	事業の概要	2
2	予算の執行状況	4
3	経営成績	6
4	財政状況	11
II 西香川病院事業会計		
1	事業の概要	15
2	予算の執行状況	17
3	経営成績	19
4	財政状況	22
第6	まとめ	25

《 凡 例 》

- 1：各表中等に表示した数値は、原数値の表示数値未満を四捨五入して表示しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2：構成比および増減率は、原数値により算出(表示数値未満を四捨五入)したため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3：符号の用法は、次のとおりとする。
 - 「0.0」・・・該当数値はあるが表示数値に満たないもの
 - 「－」・・・該当数値がないもの、算出不能又は無意味なもの
 - 「△」・・・負数又は減数
 - 「皆増」・・・前年度に数値がなく全額増加したもの
 - 「皆減」・・・当年度に数値がなく全額減少したもの

令和 3 年度三豊市病院事業会計決算審査意見

第 1 審査の対象

令和 3 年度三豊市病院事業会計決算

第 2 審査の期間

令和 4 年 7 月 8 日から令和 4 年 8 月 5 日まで

第 3 審査の方法及び着眼点

審査にあたっては、「三豊市監査基準」（令和 2 年 4 月 1 日監査委員告示第 4 号、以下「監査基準」という。）に準拠し、審査に付された三豊市病院事業会計決算書、財務諸表及び決算付属書類について、地方公営企業法その他関係法令に準拠して作成されているか、関係諸帳簿及び証拠書類との照合を行った。また、関係職員の説明を聴取し、処理の適法性、計数の正確性、事業経営の健全性、予算執行状況の適正性に主眼を置いて審査を実施した。

第 4 審査の結果

審査に付された三豊市病院事業会計決算書、財務諸表及び決算付属書類について、監査基準第 21 条第 1 項第 1 号から第 6 号までの記載事項のとおり審査した限りにおいて、いずれも関係法令等に準拠して作成されており、計数についても正確で経営成績及び財政状況、予算執行状況は、おおむね適正に表示されていると認められた。

第5 審査の概要

I 永康病院事業会計

1 事業の概要

(1) 業務の状況

・入院外来患者数

(単位：人)

区 分		令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	前年度比較	前 年 度 対 比
入 院	延 人 数	29,134	26,712	26,441	28,004	2,422	109.1%
	1 日 平 均	79.8	73.2	72.2	76.7	6.6	109.0%
外 来	延 人 数	38,808	36,489	34,366	36,029	2,319	106.4%
	1 日 平 均	159.0	148.3	140.8	147.7	10.7	107.2%

病院施設の状況は、診療科 6科、病床数 157床で、入院患者延人数は前年度と比較して2,422人(9.1%)増加、外来患者延人数も 2,319人(6.4%)増加している。

・診療科別入院患者数

(単位：人)

診療科 \ 年度	令和3年度		令和2年度		前年度比較	前 年 度 対 比
	延患者数	構成比率	延患者数	構成比率	延患者数	
一 般	12,731	43.7%	11,601	43.4%	1,130	109.7%
精 神 科	6,459	22.2%	6,980	26.1%	△ 521	92.5%
療 養 (医 療)	9,944	34.1%	8,131	30.5%	1,813	122.3%
療 養 (介 護)	0	—	0	—	0	—
合 計	29,134	100.0%	26,712	100.0%	2,422	109.1%

入院患者数を診療科別に前年度と比較すると、一般で 1,130人(9.7%)増加、精神科で 521人(7.5%)減少、療養(医療)で 1,813人(22.3%)増加している。全体では前年度に比べ、2,422人(9.1%)の増加となっている。

・診療科別外来患者数

(単位：人)

診療科 \ 年度	令和3年度		令和2年度		前年度比較	前年度
	延患者数	構成比率	延患者数	構成比率	延患者数	対 比
内 科	15,686	40.5%	14,852	40.6%	834	105.6%
外 科	407	1.0%	420	1.2%	△ 13	96.9%
整 形 外 科	11,195	28.8%	11,058	30.3%	137	101.2%
耳 鼻 咽 喉 科	1,738	4.5%	1,702	4.7%	36	102.1%
精 神 科	9,347	24.1%	8,010	22.0%	1,337	116.7%
眼 科	435	1.1%	447	1.2%	△ 12	97.3%
合 計	38,808	100.0%	36,489	100.0%	2,319	106.4%

当年度の年間外来患者数は、前年度に比べ 2,319人(6.4%)増加している。診療科別の比較では、内科で 834人、整形外科で 137人、耳鼻咽喉科で 36人、精神科で 1,337人増加しているものの、外科で 13人、眼科で 12人減少している。

また、構成比率では内科が 40.5%、整形外科が 28.8%と二つの診療科で全体の 7割近くを占めている。

・病床利用状況

(単位：人)

区 分	令和3年度		令和2年度		前年度比較	
	1日平均 患者数	病 床 利用率	1日平均 患者数	病 床 利用率	1日平均 患者数	病 床 利用率
一 般 病 床 50 床	34.9	69.8%	31.8	63.6%	3.1	6.2%
療 養 病 床 48 床	27.2	56.7%	22.3	46.4%	4.9	10.3%
精 神 病 床 59 床	17.7	30.0%	19.1	32.4%	△ 1.4	△ 2.4%
合 計 157 床	79.8	50.8%	73.2	46.6%	6.6	4.2%

病床利用率は、前年度に比べ一般病床と療養病床で増加しているが、精神病床で減少している。全体では4.2%増加し、1日平均患者数は 6.6人増加している。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

・収益的収入

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	収 入 率
病 院 事 業 収 益	1,769,000,000	1,519,047,417	△ 249,952,583	85.9%
医 業 収 益	1,495,022,000	1,229,665,853	△ 265,356,147	82.3%
医 業 外 収 益	238,067,000	261,324,294	23,257,294	109.8%
訪問看護事業収益	35,909,000	27,853,524	△ 8,055,476	77.6%
特 別 収 益	2,000	203,746	201,746	10,187.3%

・収益的支出

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
病 院 事 業 費 用	1,769,000,000	2,036,654,347	△ 267,654,347	115.1%
医 業 費 用	1,695,496,000	1,663,998,649	31,497,351	98.1%
医 業 外 費 用	29,483,000	336,247,218	△ 306,764,218	1,140.5%
訪問看護事業費用	40,036,000	36,149,859	3,886,141	90.3%
特 別 損 失	800,000	258,621	541,379	32.3%
予 備 費	3,185,000	0	3,185,000	—

事業収益の決算額は 15億1,904万7,417円で、予算額に対する収入割合は 85.9%、事業費用の決算額は 20億3,665万4,347円で、支出割合は 115.1%となり、本年度は損失が発生している。

事業の運転資金に充てるため一般会計より、長期借入金 3億2,000万円を借り入れている。

(2) 資本的収入及び支出

・資本的収入

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収 入 率
資 本 的 収 入	3,923,369,000	3,923,367,470	△ 1,530	99.9%
企 業 債	2,854,900,000	2,854,900,000	0	100.0%
他 会 計 負 担 金	113,257,000	113,257,000	0	100.0%
国 庫 補 助 金	1,450,000	1,450,000	0	100.0%
県 補 助 金	561,000	560,470	△ 530	99.9%
寄 附 金	0	0	0	—
固定資産売却代金	0	0	0	—
他 会 計 出 資 金	953,200,000	953,200,000	0	100.0%
長 期 借 入 金	1,000	0	△ 1,000	—

・資本的支出

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
資 本 的 支 出	4,040,747,000	4,004,504,286	0	36,242,714	99.1%
建 設 改 良 費	3,966,922,000	3,930,682,631	0	36,239,369	99.1%
企 業 債 償 還 金	73,825,000	73,821,655	0	3,345	99.9%

資本的収入の決算額は 39億2,336万7,470円で、予算額に対し 99.9%の収入割合となり、資本的支出の決算額は 40億450万4,286円で、支出割合は 99.1%となっている。この結果、資本的支出額が資本的収入額を上回り、8,113万6,816円の不足額を生じ、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額で補てんしている。

3 経営成績

(1) 収 益

(単位：円)

区 分	令和3年度		令和2年度		増 減 額	前年度対比
		構成比		構成比		
医 業 収 益	1,220,111,215	82.1%	1,046,281,703	78.6%	173,829,512	116.6%
入 院 収 益	669,878,664	45.1%	584,299,529	43.9%	85,579,135	114.6%
外 来 収 益	305,162,404	20.5%	249,293,208	18.7%	55,869,196	122.4%
その他医業収益	245,070,147	16.5%	212,688,966	16.0%	32,381,181	115.2%
医 業 外 収 益	238,047,866	16.0%	254,066,702	19.2%	△ 16,018,836	93.7%
受取利息及び配当金	6,308	0.0%	454,366	0.0%	△ 448,058	1.4%
他 会 計 負 担 金	174,219,000	11.7%	191,458,000	14.4%	△ 17,239,000	91.0%
他 会 計 補 助 金	22,799,000	1.5%	20,533,000	1.6%	2,266,000	111.0%
補 助 金	15,419,530	1.0%	10,032,000	0.8%	5,387,530	153.7%
患者外給食収益	782,580	0.1%	760,960	0.1%	21,620	102.8%
その他医業外収益	2,969,280	0.2%	2,470,592	0.2%	498,688	120.2%
長期前受金戻入	21,852,168	1.5%	21,790,784	1.6%	61,384	100.3%
引 当 金 戻 入 益	0	—	6,567,000	0.5%	△ 6,567,000	皆減
訪問看護事業収益	27,834,296	1.9%	22,051,647	1.6%	5,782,649	126.2%
訪問看護診療収益	11,780,282	0.8%	9,881,882	0.7%	1,898,400	119.2%
訪問看護介護収益	13,302,699	0.9%	9,348,451	0.7%	3,954,248	142.3%
訪問看護利用料収益	2,451,303	0.2%	2,141,914	0.2%	309,389	114.4%
その他事業収益	41,012	0.0%	106,400	0.0%	△ 65,388	38.5%
他 会 計 負 担 金	0	—	0	—	0	—
他 会 計 補 助 金	259,000	0.0%	229,000	0.0%	30,000	113.1%
その他特別利益	0	—	250,000	0.0%	△ 250,000	皆減
引 当 金 戻 入 益	0	—	94,000	0.0%	△ 94,000	皆減
特 別 利 益	185,225	0.0%	8,808,600	0.6%	△ 8,623,375	2.1%
固定資産売却益	0	—	0	—	0	—
過年度損益修正益	185,225	0.0%	158,600	0.0%	26,625	116.8%
その他特別利益	0	—	8,650,000	0.6%	△ 8,650,000	皆減
総 収 益	1,486,178,602	100.0%	1,331,208,652	100.0%	154,969,950	111.6%

医業収益は 12億2,011万1,215円で総収益の 82.1%を占め、前年度と比較すると構成比は 3.5%増加している。

医業外収益は 1,601万8,836円(6.3%)減少したものの、医業収益で 1億7,382万9,512円(16.6%)、訪問看護事業収益で 578万2,649円(26.2%)それぞれ増加し、総収益は 1億5,496万9,950円増加の 14億8,617万8,602円となっている。

・患者1人1日当たりの診療収益

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	増 減 額	前年度対比
入 院	22,993	21,874	1,119	105.1%
外 来	7,863	6,832	1,031	115.1%

(2) 費 用

(単位：円)

区 分	令和3年度		令和2年度		増 減 額	前年度対比
		構成比		構成比		
医 業 費 用	1,630,366,142	80.0%	1,501,414,245	91.3%	128,951,897	108.6%
給 与 費	1,127,622,935	55.3%	1,037,461,326	63.0%	90,161,609	108.7%
材 料 費	176,992,593	8.7%	146,998,805	8.9%	29,993,788	120.4%
経 費	255,798,792	12.6%	239,784,547	14.6%	16,014,245	106.7%
減 価 償 却 費	46,598,397	2.3%	53,619,209	3.3%	△ 7,020,812	86.9%
資 産 減 耗 費	0	—	170,000	0.0%	△ 170,000	皆減
研 究 研 修 費	23,353,425	1.1%	23,380,358	1.5%	△ 26,933	99.9%
医 業 外 費 用	368,989,365	18.2%	108,279,471	6.6%	260,709,894	340.8%
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	7,444,282	0.4%	3,006,948	0.2%	4,437,334	247.6%
雑 損 失	361,545,083	17.8%	105,272,523	6.4%	256,272,560	343.4%
訪 問 看 護 事 業 費 用	35,944,385	1.8%	27,322,561	1.6%	8,621,824	131.6%
給 与 費	34,172,431	1.7%	25,251,087	1.5%	8,921,344	135.3%
材 料 費	0	—	0	—	0	—
経 費	1,760,408	0.1%	1,807,398	0.1%	△ 46,990	97.4%
研 究 研 修 費	7,316	0.0%	10,926	0.0%	△ 3,610	67.0%
雑 損 失	4,230	0.0%	3,150	0.0%	1,080	134.3%
そ の 他 特 別 損 失	0	—	250,000	0.0%	△ 250,000	皆減
特 別 損 失	258,621	0.0%	8,909,669	0.5%	△ 8,651,048	2.9%
過年度損益修正損	258,621	0.0%	259,669	0.0%	△ 1,048	99.6%
そ の 他 特 別 損 失	0	—	8,650,000	0.5%	△ 8,650,000	皆減
予 備 費	0	—	0	—	0	—
予 備 費	0	—	0	—	0	—
総 費 用	2,035,558,513	100.0%	1,645,925,946	100.0%	389,632,567	123.7%

医業費用は、前年度に比べ 1億2,895万1,897円(8.6%)増加して、16億3,036万6,142円となっている。そのうち給与費の占める割合は総費用の 55.3%で、前年度と比べ 9,016万1,609円(8.7%)増加している。

医業外費用は、前年度と比べ 2億6,070万9,894円(240.8%)増加して、3億6,898万9,365円となっている。

訪問看護事業費用は 3,594万4,385円で、そのうち給与費の占める割合は総費用の 1.7%で、前年度と比べ 892万1,344円(35.3%)増加している。

(3) 経営収支

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	増 減 額	前年度対比
総 収 益 (A)	1,486,178,602	1,331,208,652	154,969,950	111.6%
経常収益※1 (B)	1,485,993,377	1,322,400,052	163,593,325	112.4%
医 業 収 益 (C)	1,220,111,215	1,046,281,703	173,829,512	116.6%
総 費 用 (D)	2,035,558,513	1,645,925,946	389,632,567	123.7%
経常費用※2 (E)	2,035,299,892	1,637,016,277	398,283,615	124.3%
医 業 費 用 (F)	1,630,366,142	1,501,414,245	128,951,897	108.6%
純 利 益 (△純損失) (A)-(D)	△ 549,379,911	△ 314,717,294	△ 234,662,617	174.6%
経 常 利 益 (△経常損失) (B)-(E)	△ 549,306,515	△ 314,616,225	△ 234,690,290	174.6%
医 業 利 益 (△医業損失) (C)-(F)	△ 410,254,927	△ 455,132,542	44,877,615	90.1%
総収支比率 (A)/(D)	73.0%	80.9%	△ 7.9%	
経常収支比率 (B)/(E)	73.0%	80.8%	△ 7.8%	
医業収支比率 (C)/(F)	74.8%	69.7%	5.1%	

※1 経常収益＝医業収益＋医業外収益＋訪問看護事業収益

※2 経常費用＝医業費用＋医業外費用＋訪問看護事業費用

令和3年度の経営収支は、総収益 14億8,617万8,602円に対し総費用 20億3,555万8,513円で、差引き 5億4,937万9,911円の純損失となっている。総収支比率は 73.0%で、前年度を 7.9%下回っている。

(4) 医療費患者自己負担金に係る未収金の状況

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	増 減 額	前年度 対 比
過 年 度 分	3,586,873	3,678,858	△ 91,985	97.5%
現 年 度 分	6,645,194	6,382,327	262,867	104.1%
合 計	10,232,067	10,061,185	170,882	101.7%

当年度の未収額については、入院患者の3月診療分が含まれているため多額になっているが、大部分は新年度4月以降に収納される見込みである。患者自己負担金に係る未収金を前年度と比べると、過年度分は 9万1,985円(2.5%)減少し、現年度分は 26万2,867円(4.1%)増加している。

(5) 経営分析

・人件費

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	令和元年度	算 式
職 員 数	111人	104人	84人	年度末職員数
人 件 費	1,127,622,935	1,037,461,326	934,711,816	
人件費対総費用比率	55.4%	63.0%	64.2%	$\frac{\text{人件費}}{\text{総費用}} \times 100$
人件費対医業収益比率	92.4%	99.2%	92.2%	$\frac{\text{人件費}}{\text{医業収益}} \times 100$

・減価償却費

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	令和元年度	算 式
減 価 償 却 費	46,598,397	53,619,209	37,564,532	
減価償却費対総費用比率	2.3%	3.3%	2.6%	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{総費用}} \times 100$
減価償却費対医業収益比率	3.8%	5.1%	3.7%	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{医業収益}} \times 100$
有 形 固 定 資 産	5,427,346,592	1,892,834,167	1,135,829,653	年度末現在

・支払利息

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	令和元年度	算 式
支 払 利 息	7,444,282	3,006,948	2,824,358	
支払利息対総費用比率	0.4%	0.2%	0.2%	$\frac{\text{支払利息}}{\text{総費用}} \times 100$
支払利息対医業収益比率	0.6%	0.3%	0.3%	$\frac{\text{支払利息}}{\text{医業収益}} \times 100$
企 業 債	3,613,320,687	832,242,342	317,470,740	年度末企業債未償還残高

4 財政状況

(1) 資産の状況

(単位：円)

区 分		令和3年度	令和2年度	増 減 額
資 産 の 部	固 定 資 産	5,427,346,592	1,892,834,167	3,534,512,425
	有形固定資産	5,427,346,592	1,892,834,167	3,534,512,425
	土地	403,809,572	339,542,772	64,266,800
	建物	452,035,771	472,797,796	△ 20,762,025
	構築物	8,382,612	8,670,400	△ 287,788
	器械備品	246,999,517	200,433,041	46,566,476
	車両	628,194	778,804	△ 150,610
	建設仮勘定	4,315,490,926	870,611,354	3,444,879,572
	流 動 資 産	2,035,661,387	555,061,844	1,480,599,543
	現金及び預金	1,824,886,633	330,893,673	1,493,992,960
	未収金	203,199,159	219,230,312	△ 16,031,153
	貯蔵品	7,453,404	4,815,668	2,637,736
	前払費用	122,191	122,191	0
	仮払金	0	0	0
資 産 合 計		7,463,007,979	2,447,896,011	5,015,111,968

資産合計は 74億6,300万7,979円で、前年度と比較し 50億1,511万1,968円増加している。このうち、固定資産は 35億3,451万2,425円増加している。これは、新病院建設による増である。

流動資産は、現金及び預金の増加により 14億8,059万9,543円の増加となっている。

(2) 負債及び資本の状況

(単位：円)

区 分		令和3年度	令和2年度	増 減 額
負 債 の 部	固 定 負 債	3,861,044,441	758,420,687	3,102,623,754
	企業債	3,541,044,441	758,420,687	2,782,623,754
	他会計借入金	320,000,000	0	320,000,000
	流 動 負 債	1,853,882,456	438,879,633	1,415,002,823
	企業債	72,276,246	73,821,655	△ 1,545,409
	未払金	1,710,622,155	290,458,048	1,420,164,107
	引当金	68,386,000	70,459,000	△ 2,073,000
	その他流動負債	2,598,055	4,140,930	△ 1,542,875
	繰 延 収 益	341,997,187	248,331,885	93,665,302
	長期前受金	1,005,699,377	890,181,907	115,517,470
	長期前受金収益化累計額	△ 663,702,190	△ 641,850,022	△ 21,852,168
負 債 合 計		6,056,924,084	1,445,632,205	4,611,291,879
資 本 の 部	資 本 金	1,346,668,489	393,468,489	953,200,000
	資本金	1,346,668,489	393,468,489	953,200,000
	剰 余 金	59,415,406	608,795,317	△ 549,379,911
	資本剰余金	893,262,516	893,262,516	0
	寄付金	1,100,000	1,100,000	0
	補助金	800,877,834	800,877,834	0
	その他資本剰余金	91,284,682	91,284,682	0
	利益剰余金	△ 833,847,110	△ 284,467,199	△ 549,379,911
	減債積立金	0	0	0
	建設改良積立金	60,000,000	60,000,000	0
	利益積立金	10,000,000	10,000,000	0
資 本 合 計		1,406,083,895	1,002,263,806	403,820,089
負 債 及 び 資 本 の 合 計		7,463,007,979	2,447,896,011	5,015,111,968

負債合計は 60億5,692万4,084円で、固定負債、流動負債、繰延収益の増加により 46億1,129万1,879円増加している。資本合計は 14億608万3,895円で、資本金の増加により 4億382万89円の増加となっている。

負債及び資本の合計は 74億6,300万7,979円となり、前年度に比べ 50億1,511万1,968円増加している。

(3) キャッシュ・フローの状況

(単位:円)

区 分	令和3年度	令和2年度	増 減 額
1 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益 (△は純損失)	△ 549,379,911	△ 314,717,294	△ 234,662,617
減価償却費	46,598,397	53,619,209	△ 7,020,812
賞与引当金等の増減額 (△は減少)	△ 2,073,000	12,888,000	△ 14,961,000
固定資産除却損	0	170,000	△ 170,000
受取利息及び受取配当金	△ 6,308	△ 454,366	448,058
長期前受金戻入額	△ 21,852,168	△ 21,790,784	△ 61,384
支払利息	7,444,282	3,006,948	4,437,334
未収金の増減額 (△は増加)	15,360,153	△ 69,934,800	85,294,953
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 2,637,736	△ 304,235	△ 2,333,501
前払費用の増減額 (△は増加)	0	1,281,920	△ 1,281,920
前払金の増減額 (△は増加)	0	280,500	△ 280,500
仮払金の増減額 (△は増加)	0	0	0
未払金の増減額 (△は減少)	4,386,707	△ 7,029,727	11,416,434
その他流動負債の増減額 (△は減少)	△ 1,542,875	2,291,224	△ 3,834,099
小 計	△ 503,702,459	△ 340,693,405	△ 163,009,054
利息及び配当金の受取額	6,308	454,366	△ 448,058
利息の支払額	△ 7,444,282	△ 3,006,948	△ 4,437,334
業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 511,140,433	△ 343,245,987	△ 167,894,446
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 2,165,083,422	△ 708,019,464	△ 1,457,063,958
国庫補助金による収入	1,450,000	0	1,450,000
県補助金による収入	1,231,470	0	1,231,470
一般会計負担金による収入	113,257,000	36,273,000	76,984,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,049,144,952	△ 671,746,464	△ 1,377,398,488
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
建設改良等の財源に充てるための 企業債による収入	2,854,900,000	535,100,000	2,319,800,000
建設改良等の財源に充てるための 企業債の償還による支出	△ 73,821,655	△ 20,328,398	△ 53,493,257
その他の他会計借入金による収入	320,000,000	0	320,000,000
出資金による収入	953,200,000	184,600,000	768,600,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,054,278,345	699,371,602	3,354,906,743
資金増減額 (△は減少)	1,493,992,960	△ 315,620,849	1,809,613,809
資金期首残高	330,893,673	646,514,522	△ 315,620,849
資金期末残高	1,824,886,633	330,893,673	1,493,992,960

業務活動によるキャッシュ・フローは 5億1,114万433円の資金流出、投資活動によるキャッシュ・フローは 20億4,914万4,952円の資金流出、財務活動によるキャッシュ・フローは 40億5,427万8,345円の資金流入となり、本年度における資金増加額は 14億9,399万2,960円、資金期末残高は 18億2,488万6,633円となっている。

(4) 財務比率等

(単位：％)

区 分	令和3年度	令和2年度	令和元年度	算 式
① 自己資本構成比率	23.4	51.1	70.5	$\frac{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
② 固 定 比 率	310.5	151.4	83.2	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}} \times 100$
③ 流 動 比 率	109.8	126.5	292.0	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$
④ 企業債元金償還金対減価償却額比率	158.4	37.9	50.4	$\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{当 年 度 減 価 償 却 費}} \times 100$
⑤ 不 良 債 務 比 率	△ 14.9	△ 11.1	△ 52.0	$\frac{\text{流 動 負 債} - \text{流 動 資 産}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$

- ① 自己資本構成比率は、総資本中に占める自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）の割合を示すもので、その比率が大きいほど経営の健全性が高いといえる。当年度は23.4％で、前年度を 27.7％下回っている。
- ② 固定比率は、固定資産が自己資本によってまかなわれるべき割合を示す指数で、経営の安全性を確保するためには100％以下が望ましい。当年度は 310.5％で、前年度を 159.1％上回っている。
- ③ 流動比率は、流動負債の支払能力及び運転資金の状態を示すもので、理想比率は 200％以上である。当年度は 109.8％で理想比率を下回っている。
- ④ 企業債元金償還金対減価償却額比率は、企業債償還額とその主要償還財源である減価償却費を比較したもので、企業債償還能力を示し、この比率が低いほど償還能力は高いと言える。
- ⑤ 不良債務比率は、医業収益に占める不良債務額で、この比率が低いほど経営状態は良好と言える。

Ⅱ 西香川病院事業会計

1 事業の概要

病院運営にあたっては、一般社団法人三豊・観音寺市医師会を指定管理者として運営を行っている。また、会計事務の効率化を図るため、指定管理者が直接料金収受を行う利用料金制を導入している。

(1) 業務の状況

・入院外来患者数

(単位：人)

区 分		令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	前年度比較	前 年 度 対 比
入 院	延 人 数	51,704	52,204	53,256	53,447	△ 500	99.0%
	1 日 平 均	141.7	143.0	145.5	146.4	△ 1.3	99.1%
外 来	延 人 数	24,007	24,148	26,438	29,477	△ 141	99.4%
	1 日 平 均	87.4	87.4	110.2	120.8	0.0	100.0%

病院施設の状況は、診療科 3科及びデイケア、病床数 150床で、入院患者延人数は前年度と比較して500人(1.0%)減少、外来患者延人数も 141人(0.6%)減少している。

・診療科別入院患者数

(単位：人)

診療科 \ 年度	令和3年度		令和2年度		前年度比較	前 年 度 対 比
	延患者数	構成比率	延患者数	構成比率	延患者数	
精 神 科	20,828	40.3%	21,201	40.6%	△ 373	98.2%
療 養 (医 療)	20,717	40.1%	20,607	39.5%	110	100.5%
療 養 (介 護)	10,159	19.6%	10,396	19.9%	△ 237	97.7%
合 計	51,704	100.0%	52,204	100.0%	△ 500	99.0%

入院患者数を診療科別に前年度と比較すると、精神科で 373人(1.8%)減少、療養(医療)で 110人(0.5%)増加、療養(介護)で 237人(2.3%)減少している。全体では前年度に比べ、500人(1.0%)の減少となっている。

・診療科別外来患者数

(単位：人)

診療科 \ 年度	令和3年度		令和2年度		前年度比較	前年度
	延患者数	構成比率	延患者数	構成比率	延患者数	対 比
内 科	2,989	12.4%	3,341	13.8%	△ 352	89.5%
リ ハ ビ リ 科	1,996	8.3%	1,683	7.0%	313	118.6%
精 神 科	5,518	23.0%	5,426	22.5%	92	101.7%
デ イ ケ ア	13,504	56.3%	13,698	56.7%	△ 194	98.6%
合 計	24,007	100.0%	24,148	100.0%	△ 141	99.4%

当年度の年間外来患者数は、前年度に比べ 141人(0.6%)減の2万4,007人となっている。診療科別の比較では、リハビリ科で 313人(18.6%)、精神科で 92人(1.7%)増加、内科で352人(10.5%)、デイケアで194人(1.4%)減少している。

・病床利用状況

(単位：人)

区 分	令和3年度		令和2年度		前年度比較	
	1日平均 患者数	病 床 利用率	1日平均 患者数	病 床 利用率	1日平均 患者数	病 床 利用率
療 養 病 床 90 床	84.6	94.0%	84.9	94.3%	△ 0.3	△ 0.3%
精 神 病 床 60 床	57.1	95.2%	58.1	96.8%	△ 1.0	△ 1.6%
合 計 150 床	141.7	94.4%	143.0	95.3%	△ 1.3	△ 0.9%

病床利用率は、前年度に比べ精神病床、療養病床ともに減少している。1日平均患者数は1.3人減少している。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

・収益的収入

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	収 入 率
病 院 事 業 収 益	217,080,000	217,083,795	3,795	100.0%
医 業 収 益	1,800,000	1,643,400	△ 156,600	91.3%
医 業 外 収 益	215,279,000	215,440,395	161,395	100.1%
特 別 利 益	1,000	0	△ 1,000	—

・収益的支出

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
病 院 事 業 費 用	187,080,000	185,120,659	1,959,341	99.0%
医 業 費 用	180,212,000	178,260,216	1,951,784	98.9%
医 業 外 費 用	6,865,000	6,860,443	4,557	99.9%
特 別 損 失	3,000	0	3,000	—

事業収益の決算額は 2億1,708万3,795円で、予算額に対する収入割合は 100.0%、事業費用の決算額は 1億8,512万659円で、支出割合は 99.0%となり、本年度は利益が発生している。

(2) 資本的収入及び支出

・資本的収入

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	収 入 率
資 本 的 収 入	45,561,000	45,730,000	169,000	100.4%
企 業 債	25,200,000	25,200,000	0	100.0%
他 会 計 負 担 金	17,897,000	17,166,000	△ 731,000	95.9%
基 金 負 担 金	720,000	720,000	0	100.0%
補 助 金	1,644,000	1,644,000	0	100.0%
寄 付 金	100,000	1,000,000	900,000	1000.0%

・資本的支出

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
資 本 的 支 出	81,736,000	81,242,960	493,040	99.4%
建 設 改 良 費	27,517,000	27,034,575	482,425	98.2%
企 業 債 償 還 金	54,199,000	54,198,145	855	99.9%
基 金 積 立 金	20,000	10,240	9,760	51.2%

資本的収入の決算額は 4,573万円で、予算額に対し 100.4%の収入割合となり、資本的支出の決算額は 8,124万2,960円で、支出割合は 99.4%となっている。この結果、資本的支出額が資本的収入額を上回り、3,551万2,960円の不足額を生じ、過年度分損益勘定留保資金で補っている。

3 経営成績

(1) 収 益

(単位：円)

区 分	令和3年度		令和2年度		増 減 額	前年度対比
		構成比		構成比		
医 業 収 益	1,643,400	0.8%	1,744,050	0.7%	△ 100,650	94.2%
入 院 収 益	0	—	0	—	0	—
外 来 収 益	0	—	0	—	0	—
その他医業収益	1,643,400	0.8%	1,744,050	0.7%	△ 100,650	94.2%
医 業 外 収 益	215,440,395	99.2%	218,720,601	92.9%	△ 3,280,206	98.5%
受取利息及び配当金	15,971	0.0%	34,585	0.0%	△ 18,614	46.2%
他 会 計 負 担 金	182,630,000	84.1%	186,023,000	79.0%	△ 3,393,000	98.2%
他 会 計 補 助 金	0	—	0	—	0	—
患者外給食収益	0	—	0	—	0	—
その他医業外収益	30,020	0.0%	39,260	0.0%	△ 9,240	76.5%
長期前受金戻入	32,764,404	15.1%	32,623,756	13.9%	140,648	100.4%
特 別 利 益	0	—	15,069,960	6.4%	△ 15,069,960	皆減
固定資産売却益	0	—	0	—	0	—
過年度損益修正益	0	—	0	—	0	—
その他特別利益	0	—	15,069,960	6.4%	△ 15,069,960	皆減
総 収 益	217,083,795	100.0%	235,534,611	100.0%	△ 18,450,816	92.2%

医業収益は、指定管理者が直接料金収受を行う「利用料金制」を導入しているため、入院・外来収益はなく、その他医業収益(文書料収益) 164万3,400円のみである。医業外収益は、前年度に比べ 328万206円(1.5%)の減少となっている。総収益でも前年度収益を 1,845万816円(7.8%)下回っている。

(2) 費 用

(単位：円)

区 分	令和3年度		令和2年度		増 減 額	前年度対比
		構成比		構成比		
医 業 費 用	178,260,216	96.3%	182,711,975	89.0%	△ 4,451,759	97.6%
給 与 費	0	—	0	—	0	—
材 料 費	0	—	0	—	0	—
経 費	104,614,439	56.5%	110,241,617	53.7%	△ 5,627,178	94.9%
減 価 償 却 費	73,280,842	39.6%	71,898,108	35.0%	1,382,734	101.9%
資 産 減 耗 費	364,935	0.2%	572,250	0.3%	△ 207,315	63.8%
研 究 研 修 費	0	—	0	—	0	—
医 業 外 費 用	6,860,443	3.7%	7,644,040	3.7%	△ 783,597	89.7%
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	6,860,443	3.7%	7,644,040	3.7%	△ 783,597	89.7%
雑 損 失	0	—	0	—	0	—
特 別 損 失	0	—	15,069,960	7.3%	△ 15,069,960	皆減
過年度損益修正損	0	—	0	—	0	—
そ の 他 特 別 損 失	0	—	15,069,960	7.3%	△ 15,069,960	皆減
予 備 費	0	—	0	—	0	—
予 備 費	0	—	0	—	0	—
総 費 用	185,120,659	100.0%	205,425,975	100.0%	△ 20,305,316	90.1%

医業費用は、前年度に比べ 445万1,759円(2.4%)減少して、1億7,826万216円となっている。

医業外費用は、前年度と比べ 78万3,597円(10.3%)減少して、686万443円となっている。

総費用は 1億8,512万659円で、前年度より 2,030万5,316円減少している。

(3) 経営収支

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	増 減 額	前年度対比
総 収 益 (A)	217,083,795	235,534,611	△ 18,450,816	92.2%
経常収益※1 (B)	217,083,795	220,464,651	△ 3,380,856	98.5%
医 業 収 益 (C)	1,643,400	1,744,050	△ 100,650	94.2%
総 費 用 (D)	185,120,659	205,425,975	△ 20,305,316	90.1%
経常費用※2 (E)	185,120,659	190,356,015	△ 5,235,356	97.2%
医 業 費 用 (F)	178,260,216	182,711,975	△ 4,451,759	97.6%
純 利 益 (△純損失) (A)-(D)	31,963,136	30,108,636	1,854,500	106.2%
経 常 利 益 (△経常損失) (B)-(E)	31,963,136	30,108,636	1,854,500	106.2%
医 業 利 益 (△医業損失) (C)-(F)	△ 176,616,816	△ 180,967,925	4,351,109	97.6%
総収支比率 (A)/(D)	117.3%	114.7%	2.6%	

※1 経常収益＝医業収益＋医業外収益

※2 経常費用＝医業費用＋医業外費用

令和3年度の経営収支は、総収益 2億1,708万3,795円に対し総費用 1億8,512万659円で、差引き 3,196万3,136円の純利益となっている。総収支比率は 117.3%で、前年度を 2.6%上回っている。

4 財政状況

(1) 資産の状況

(単位：円)

区 分		令和3年度	令和2年度	増 減 額
資 産 の 部	固 定 資 産	1,501,899,812	1,549,220,774	△ 47,320,962
	有形固定資産	1,488,386,965	1,534,998,167	△ 46,611,202
	土地	490,000,000	490,000,000	0
	建物	763,300,544	806,780,714	△ 43,480,170
	構築物	182,636,283	188,540,355	△ 5,904,072
	器械備品	44,245,641	41,582,546	2,663,095
	車両	8,204,497	8,094,552	109,945
	リース資産(有形)	0	0	0
	投資	13,512,847	14,222,607	△ 709,760
	基金	13,512,847	14,222,607	△ 709,760
	流 動 資 産	680,033,338	651,738,000	28,295,338
	現金及び預金	679,911,908	651,555,100	28,356,808
	未収金	121,430	182,900	△ 61,470
資 産 合 計		2,181,933,150	2,200,958,774	△ 19,025,624

資産合計は21億8,193万3,150円で、前年度と比較し 1,902万5,624円減少している。

このうち、固定資産は 4,732万962円減少している。これは、減価償却によるものである。

流動資産は、現金及び預金の増加により 2,829万5,338円の増加となっている。

(2) 負債及び資本の状況

(単位：円)

区 分		令和3年度	令和2年度	増 減 額
負債 の 部	固 定 負 債	361,959,904	393,361,839	△ 31,401,935
	企業債	361,959,904	393,361,839	△ 31,401,935
	流 動 負 債	154,725,178	161,357,599	△ 6,632,421
	企業債	56,601,935	54,198,145	2,403,790
	リース債務	0	0	0
	未払金	98,123,243	107,159,454	△ 9,036,211
	繰 延 収 益	356,042,407	387,162,811	△ 31,120,404
	長期前受金	1,290,854,414	1,292,623,743	△ 1,769,329
	受贈財産評価額	993,668,217	993,668,217	0
	補助金	297,186,197	298,955,526	△ 1,769,329
	長期前受金収益化累計額	△ 934,812,007	△ 905,460,932	△ 29,351,075
	受贈財産評価額	△ 755,795,038	△ 735,943,741	△ 19,851,297
	補助金	△ 179,016,969	△ 169,517,191	△ 9,499,778
	負 債 合 計	872,727,489	941,882,249	△ 69,154,760
資 本 の 部	資 本 金	0	0	0
	資本金（自己）	0	0	0
	剰 余 金	1,309,205,661	1,259,076,525	50,129,136
	資本剰余金	778,429,300	760,263,300	18,166,000
	受贈財産評価額	392,000,000	392,000,000	0
	補助金	0	0	0
	寄付金	92,836,300	91,836,300	1,000,000
	その他資本剰余金	293,593,000	276,427,000	17,166,000
	利益剰余金	530,776,361	498,813,225	31,963,136
	減債積立金	470,676,072	440,567,436	30,108,636
	利益積立金	28,137,153	28,137,153	0
	当年度未処分利益剰余金	31,963,136	30,108,636	1,854,500
資 本 合 計		1,309,205,661	1,259,076,525	50,129,136
負 債 及 び 資 本 の 合 計		2,181,933,150	2,200,958,774	△ 19,025,624

負債合計は 8億7,272万7,489円で、固定負債、流動負債、繰延収益の減少により6,915万4,760円減少している。資本合計は13億920万5,661円で、剰余金が 5,012万9,136円増加している。

負債及び資本の合計は 21億8,193万3,150円となり、前年度に比べ 1,902万5,624円減少している。

(3) キャッシュ・フローの状況

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	増 減 額
1 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益（△は純損失）	31,963,136	30,108,636	1,854,500
減価償却費	73,280,842	71,898,108	1,382,734
長期前受金戻入額	△ 32,764,404	△ 32,623,756	△ 140,648
特別利益	0	15,069,960	△ 15,069,960
資産減耗費	364,935	572,250	△ 207,315
特別損失	0	△ 15,069,960	15,069,960
受取利息及び受取配当金	△ 15,971	△ 34,585	18,614
支払利息	6,860,443	7,644,040	△ 783,597
未収金の増減額（△は増加）	61,470	28,014,480	△ 27,953,010
未払金の増減額（△は減少）	△ 9,036,211	△ 408,392	△ 8,627,819
小 計	70,714,240	105,170,781	△ 34,456,541
利息及び配当金の受取額	15,971	34,585	△ 18,614
利息の支払額	△ 6,860,443	△ 7,644,040	783,597
業務活動によるキャッシュ・フロー	63,869,768	97,561,326	△ 33,691,558
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 27,034,575	△ 14,491,972	△ 12,542,603
国庫補助金による収入	1,644,000	0	1,644,000
一般会計負担金による収入	17,166,000	16,012,000	1,154,000
基金負担金	720,000	9,991,972	△ 9,271,972
寄付金	1,000,000	0	1,000,000
基金積立金	△ 10,240	△ 29,181	18,941
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,514,815	11,482,819	△ 17,997,634
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
建設改良費等の財源に充てるための 企業債による収入	25,200,000	4,500,000	20,700,000
建設改良費等の財源に充てるための 企業債の償還による支出	△ 54,198,145	△ 46,046,791	△ 8,151,354
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 28,998,145	△ 41,546,791	12,548,646
資金増減額（△は減少）	28,356,808	67,497,354	△ 39,140,546
資金期首残高	651,555,100	584,057,746	67,497,354
資金期末残高	679,911,908	651,555,100	28,356,808

業務活動によるキャッシュ・フローは 6,386万9,768円の資金流入、投資活動によるキャッシュ・フローは 651万4,815円の資金流出、財務活動によるキャッシュ・フローは 2,899万8,145円の資金流出となり、本年度における資金増加額は 2,835万6,808円、資金期末残高は 6億7,991万1,908円となっている。

第6 まとめ

三豊市病院事業会計は、市直営の「永康病院」と公設民営（指定管理者制度）による「西香川病院」から構成されている。

いずれも経営の基本理念となるのは、健全な病院経営の継続と公共の福祉の増進であることに変わりはなく、広域的な観点からも、保健、福祉、医療の各機関との連携による経営の効率化が求められている。現時点においては、それぞれの病院の特色、機能等を最大限に生かし、創意工夫による経営の健全化に取り組んでいる。今後も市民の健康保持、医療環境の充実に努め、福祉の増進に寄与されたい。

【業務および経営状況等について】

○ 永康病院：公設公営

当年度業務の実績については、延べ入院患者数は 2 万 9,134 人で前年度に比べ 2,422 人、延べ外来患者数は 3 万 8,808 人で前年度に比べ 2,319 人それぞれ増加した。

一般病棟内に地域包括ケア病床を導入することで、在宅復帰に向けての支援が充実した。また、令和 2 年 10 月に着工した新病院の建設が、今年度末に「みとよ市民病院」として完成した。

訪問看護ステーションや医師による訪問診療等、在宅医療等への対応を推進しているが、事業収益 14 億 8,617 万 8,602 円に対し、事業費用 20 億 3,555 万 8,513 円であり、この結果、5 億 4,937 万 9,911 円の純損失を生じている。

また、当年度の収益的収支は、医業収益 12 億 2,011 万 1,215 円に対し、医業費用 16 億 3,036 万 6,142 円であり、医業本来の収支状況を示す医業収支比率（医業収益÷医業費用×100）は 74.8%と、前年度を 5.1%上回る結果となった。

一方、資本的収支については、企業債や他会計出資金等の収入合計 39 億 2,336 万 7,470 円に対し、資本的支出は、新病院建設のための工事請負費や備品購入費、企業債償還金等により 40 億 450 万 4,286 円となっている。差引き不足額 8,113 万 6,816 円は当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額で補てんしている。

○ 西香川病院：指定管理者 一般社団法人三豊・観音寺市医師会

当年度業務の実績については、延べ入院患者数は 5 万 1,704 人で前年度に比べ 500 人、延べ外来患者数は 2 万 4,007 人で前年度に比べ 141 人、それぞれ減少した。

当年度の経営収支は、事業収益が 2 億 1,708 万 3,795 円と前年度に比べ 7.8%減少し、事業費用も 1 億 8,512 万 659 円と前年度に比べ 9.9%減少した。この結果、純利益 3,196 万 3,136 円が生じ、前年度に比べて 185 万 4,500 円、率にして、6.2%の増となった。

また、資本的収支については、資本的収入 4,573 万円に対し、資本的支出は、企業債償還金等による 8,124 万 2,960 円となり、不足する額 3,551 万 2,960 円は過年度分損益勘定留保資金により補てんしている。

【総 論】

医療を取り巻く環境は、地域内人口の減少・高齢化の進展や経済の停滞、医療技術の進歩などを背景に変化していく中で、大変厳しい状況にある。特に病院経営においては、多様化するニーズに対し、利用者の視点に立った質の高い医療を安定的に提供する体制の確立・強化が課題となっている。本市も例外ではなく、企業債の未償還残高については、西香川病院は前年度を下回ったが、永康病院では、企業債を主な財源として新病院建設に取り組んだ結果、前年度を大きく上回った。

令和 3 年度は、永康病院では新型コロナウイルス等の感染症対策として発熱外来の設置や抗原検査、オンライン診療を実施し、西香川病院においても感染拡大を防ぐための様々な工夫や努力をする等、医療従事者のみならず病院関係者が一丸となって尽力されたことについて、深く感謝申し上げます。ウィズ・コロナ社会において、「新しい生活様式」を実践している中、今後も新型コロナウイルス感染症は病院経営に影響を及ぼすと思われる、病院事業環境はより一層厳しくなることが予測される。現状把握や経営に対する意識改善を図り、病院事業の効率的な運営を目指して努力されることを望む。

令和 4 年 5 月には、地域に密着した病院として「みとよ市民病院」が新しく開院した。今後とも、西香川病院と共に、地域における中核病院として、他の医療機関等との連携を密に図り、地域住民が求める安全で満足度の高い良質な医療を持続的に提供していただけるよう努力されたい。また、そのために施設・設備の整備はもとより、医療従事者が安心して診療に従事でき、職員一人ひとりの意欲と達成感が醸成されるよう、環境の変化に対応した効率的な病院経営に取り組まれない。

さらに、地域住民に信頼され、親しまれ、選ばれる病院となれるよう、医師確保による診療体制の強化を図るなど、様々な課題に取り組みながら、将来の展望を描き、安心して豊かな地域社会の実現のため、一層貢献されることを期待する。

